



# 時を知らせる「音」をめぐって

土田 牧子



ニコライ堂の鐘楼(御茶ノ水)

共立女子大学にお世話になっている。新しいことに囲まれて、充実した毎日を送らせていた。自分が在籍した大学との違いに「へえ」となる。多くの人が学校を思い浮かべるだろう。チャイムの音と学校という場所とが感覚の中で繋がっているのだ。私たちが取り囲む多くの音は、場所や空間と離れがたく結びついている。これは音の大きな特性とも言える。音は時間とともに消え去るからこそ(他の場所へ持ち運びできないから)こそ、それが響く空間との結びつきを強くする。学校のチャイムが懐かしいのはそのためだ。

とはいえ、私は小学校の時しか「キンコンカン」を聞いたことがない。自分の大学に聞かされたことは比較的に知られていない。自分の大学に聞かされたことは比較的に知られていない。自分の大学に聞かされたことは比較的に知られていない。

はチャイムがなかったし、中高の校内チャイムの記憶は「ジリリリ」というベル音である。非常ベルさながらの耳をつんざくような音で、入試でもそれを使うので、火事だ！と席を立った受験生もいる、という話である。あの音で授業時間を告げられていたのだからひとりの環境だったのだが、校舎の改築とともに「ジリリリ」はいかにもミッションスクールらしい鐘の音(キンコンカン)ではない)に変わってしまった。少し寂しかった。私にとっては、けたたましいベル音が学校という場所と結びついていたのだ。

ちなみに、娘の通う小学校では原則として授業ごとのチャイムは鳴らないという。自分で時計を見て行動できる自主性を育てるという方針らしい。最近はその小学校が増えているらしく、なるほどそんなものかとも思う。でも、彼らにとつてはチャイム音と学校という空間との結びつきが生まれないのだと思うと、少し不思議な気がする。

八〇年代のウォークマンの出現以来、どこでも好きな音が聴ける時代が到来し、音を取り巻く環境は劇的に変わった。近年はiPodやスマホにより、音はポータブルであることが当たり前になった。急速に弱まりつつあるのかもしれない。音と場所・空間との結びつきを大切にしたいと思っている。

(つちだ まきこ) 専任講師 師 歌舞伎

川崎照代(一九六九年劇芸術コース卒業)さんの新作『春疾風』(はやく)が今年三月紀伊国屋ホールにて上演された。文学座への書き下ろしは『野分立つ』(一九九五年)『雷』(二〇〇七年)に続き三作目である。前二作で様々な家族の姿を描いた作者は、今回は季節を春に設定し、二〇〇八年川崎さんの戯曲では女性た

あつた子供のためのツリーハウス作成のために故郷にとどまったこと、東日本大震災の被災を目のあたりにして「自

歌も、インディーズもある。洋の東西も、器楽か歌唱かも男女も、年齢も、顔の良し悪しも問わない。中には、飲み屋のおかみが聞かせてくれた狼歌まである。これらを、その時どきに合わせて、気ままに聞き流している。

あるかどうかは分からないし、好きになったきっかけもバラバラであるが、旋律も何も関係なく、これらの音に耳を傾けていけば、なぜか「猫にマタタビ」あるいは「大に論語」状態になってしまう。

「イギリスの雑誌に見る第二次世界大戦下の女性像」女性史総合研究会『女性史学』二十六号 二〇一六年 須田 基揮

「森羅万象」131002D) 104×220mm

「森羅万象」150811D) 104×220mm

第二十八回現代美術展 今治市河野美術館 二〇一六年二月六日〜二月八日

田口 亜紀

「他者の視点の獲得」『中村真一郎手帖』第十一号、水声社、二〇一六年四月

福田 収

『基礎講座 哲学』(共著) 共立女子大学 二〇一六年四月

堀 新

『秀吉の虚像と実像』共編著 笠間書院、二〇一六年七月

『信長・秀吉の国家構想』一編 藩制国家の成立』 杉森哲也編『大学の日本史』二〇一六年三・近世、山川出版社、三月

「天下人は天皇を蔑ろにしていなかっただけ」『新説新発見の日本史』 洋泉社 二〇一六年四月

## 音声と言葉

半沢 幹一

平成一〇年だから、なんと、もう一八年も昔のことになる。表現学会というマイナーな学会の全国大会で、「はやりうた」の表現」というテーマのシンポジウムがあり、よせばいいのに、面白がって、その司会を買って出た。

お堅い学会にははきわめて異色のテーマで、成果はともかく、とても流行りそうにないおじさんたちが歌の流行を熱く語り合う様子が、じつに愉快だった。

川崎さん(一九六九年劇芸術コース卒業)さんの新作『春疾風』(はやく)が今年三月紀伊国屋ホールにて上演された。文学座への書き下ろしは『野分立つ』(一九九五年)『雷』(二〇〇七年)に続き三作目である。前二作で様々な家族の姿を描いた作者は、今回は季節を春に設定し、二〇〇八年川崎さんの戯曲では女性た

あつた子供のためのツリーハウス作成のために故郷にとどまったこと、東日本大震災の被災を目のあたりにして「自

歌も、インディーズもある。洋の東西も、器楽か歌唱かも男女も、年齢も、顔の良し悪しも問わない。中には、飲み屋のおかみが聞かせてくれた狼歌まである。これらを、その時どきに合わせて、気ままに聞き流している。

あるかどうかは分からないし、好きになったきっかけもバラバラであるが、旋律も何も関係なく、これらの音に耳を傾けていけば、なぜか「猫にマタタビ」あるいは「大に論語」状態になってしまう。

「イギリスの雑誌に見る第二次世界大戦下の女性像」女性史総合研究会『女性史学』二十六号 二〇一六年 須田 基揮

「森羅万象」131002D) 104×220mm

「森羅万象」150811D) 104×220mm

第二十八回現代美術展 今治市河野美術館 二〇一六年二月六日〜二月八日

田口 亜紀

「他者の視点の獲得」『中村真一郎手帖』第十一号、水声社、二〇一六年四月

福田 収

『基礎講座 哲学』(共著) 共立女子大学 二〇一六年四月

堀 新

『秀吉の虚像と実像』共編著 笠間書院、二〇一六年七月

『信長・秀吉の国家構想』一編 藩制国家の成立』 杉森哲也編『大学の日本史』二〇一六年三・近世、山川出版社、三月

「天下人は天皇を蔑ろにしていなかっただけ」『新説新発見の日本史』 洋泉社 二〇一六年四月



「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ



アヤシイウォークマン

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

「時の鐘」が時刻を知らせるシ

### 川崎照代作 「春疾風」について

多田 久恵

川崎照代(一九六九年劇芸術コース卒業)さんの新作『春疾風』(はやく)が今年三月紀伊国屋ホールにて上演された。文学座への書き下ろしは『野分立つ』(一九九五年)『雷』(二〇〇七年)に続き三作目である。前二作で様々な家族の姿を描いた作者は、今回は季節を春に設定し、二〇〇八年川崎さんの戯曲では女性た



『春疾風』写真提供 文学座 撮影・宮川舞子

あつた子供のためのツリーハウス作成のために故郷にとどまったこと、東日本大震災の被災を目のあたりにして「自

あるかどうかは分からないし、好きになったきっかけもバラバラであるが、旋律も何も関係なく、これらの音に耳を傾けていけば、なぜか「猫にマタタビ」あるいは「大に論語」状態になってしまう。

「イギリスの雑誌に見る第二次世界大戦下の女性像」女性史総合研究会『女性史学』二十六号 二〇一六年 須田 基揮





### 「フランス語/フランス文学」

#### イベント目白押し

コースではイベントが目白押しです。五六月に仏検対策講座を四回開催し、仏検合格者が倍増しました。

コース研究旅行で箱根「星の王子さまミュージアム」に総勢五十人で行き、サンテグジュペリとその作品に触れました。六七月に総文研の展示フランスからのおくりもの、日本からのおくりもの、富岡製糸場とシルク」では、昨年度のコース研究旅行の成果を発表しました。関連企画の、富岡在住のフランス人研究者による講演と、フランス人発語家による落語口演も好評でした。造形コースの須田基揮先生がデ

ザインされたポスターが目を引きました。

パリ祭(革命記念日)でのパーティも大好評でした。今年も共立祭でフランス語劇を上演しました。今年度着任した滝沢明子先生がフランス語指導に加わり、モリエール劇団はパワーアップし、卒業生、留学生からエールが送られ、十月十五日十三時半と十五時半の上演は大盛況でした。同日に同窓会を開催しました。次回のイベントはクリスマス会です。(歩女)

雑木林、百人番所越しの丸の内、北の丸公園の青楓、その下を流れる清流、行水する鳥の濡羽、武蔵野、九段下の画廊の店、友人が教えてくれたパン屋、旧近衛師団司令部庁舎を利用した工芸館、学生会館のスクラッチタイル、いつしか見慣れた野球発祥の地記念碑、ささみの最中、獺祭のある酒屋、最高のウィスキー、今は国立博物館の収蔵品となった室町絵巻を、初めて目にした角の古書店。遠く昔、卒業式の日に謝恩会をやった山の上ホテル。マロングラッセを買いに通った洋菓子店はなくなってしまうけれど、一朝一夕に出来るものではない、歴史と記憶が重なり合っていて、奇跡的な調和をかもし出すこの街に、自分の日常が刻み込まれていくことの幸せ。ここにアトリエがあること、ここに図書館があること、ここで学べる時間を得られた幸運を、学生たちが気づいてく

#### 「日本語日本文学」

##### ウチ来るの？

れるのは、彼女たちがもう少し大人になってからかもしれない。(山本)

日文コースの研究室は、十四階の一四一です。入ると、二人の助手さんがにこやかに迎えてくれます(時と場合により異なります)。入ってすぐのところに座っているのが、齋藤助手、通称「めづたん」です。奥の方にいるのが市地助手、通称「いちぢー」です。めぐたんは浦島太郎で卒論を書いた後、すぐ助手になって三年目、バル系の塊の「平生の肉」が好物だそうです。全然イメ

成蹊大学院で変体仮名を研究し、今も続けています。京都縁寿庵清水の金平糖が大好きなんです。

助手さんの席の奥に、本棚があって、古典文学大系や古典文学全集、新潮の古典集成、それからニッソク(日本国語大辞典)なんか置いてあります。演習などでの調査をする際の基本文献です。図書館にもあるけれど、一四一で見ると楽です。ついでにわからないことがあったら、どんな助手さんに質問してください。やさしく答えてくれます(時と場合により異なります)。その奥は、伏魔殿です。決して覗いてはいけません。(遠藤)

#### 「文芸教養」

##### 「フンキョウウ女子」?

フンキョウウ女子って何するコース? そんな質問が毎年、一年生からよく発せられます。ほかのコースで答えることになれば、多様性(diversity)を学ぶコースかな、と思います。フンキョウウ教員陣の肩書き

の上での「専門」は、西洋古代史、日本史、中国文学、中国語学、東ヨーロッパ文学、フランス文学、芸術社会学……ですが、それぞれの教員が幅広い関心を持っていて、これらの分野からは想像がつかないようなおもしろい授業もたくさんあり、時代では古代から現在に至るまで、地域ではヨーロッパ、アメリカからアジア、日本に至るまで、多彩な内容を扱っています。

好きな作家はジーン・リースと太宰治。好きな映画監督はアルモドバルと成瀬巳喜男。ギリシア語と中国語をかじっていて、ヘロドトスや杜甫を読む。趣味は城めぐりとアート・フェスめぐり。好きな音楽はヒップホップと昭和歌謡——そんな多様な価値観を身に付けたフンキョウウ女子には、混迷を深めてゆくこの時代を駆け抜け、新しい何かを生み出す力があるはず。(福嶋)

#### 「劇芸術」

##### 「劇芸の基礎修練」

授業や観劇会のレポートを書く際に、舞台作品の梗概をまとめる必要があるかと思いきや、これまでも国語の授業などで文章の要旨をまとめる経験はあっても、戯曲やシナリオのあらすじとは異なるので苦手な方もいるでしょう。登場人物が多かったり出来事が次々と起こったりする場合、時系列でまとめていくとだらだらと長くなりすぎてしまっ

て難しいです。

しかし、うまく書けないからといってちゃんやwebサイトの紹介文をそっくり借用することはやめましょう。梗概を自分の言葉でまとめあげることが劇芸術を学ぶ上での基礎修練そのものです。スポーツであれば筋トレに相当します。量をこなしているうちに気づけばコツがつかめるようになっていくはず。初め

から楽に上手にできるものでありませんが、西洋古代史、日本史、中国文学、中国語学、東ヨーロッパ文学、フランス文学、芸術社会学……ですが、それぞれの教員が幅広い関心を持っていて、これらの分野からは想像がつかないようなおもしろい授業もたくさんあり、時代では古代から現在に至るまで、地域ではヨーロッパ、アメリカからアジア、日本に至るまで、多彩な内容を扱っています。

好きな作家はジーン・リースと太宰治。好きな映画監督はアルモドバルと成瀬巳喜男。ギリシア語と中国語をかじっていて、ヘロドトスや杜甫を読む。趣味は城めぐりとアート・フェスめぐり。好きな音楽はヒップホップと昭和歌謡——そんな多様な価値観を身に付けたフンキョウウ女子には、混迷を深めてゆくこの時代を駆け抜け、新しい何かを生み出す力があるはず。(福嶋)

私の専門は体育学なので、担当科目は健康スポーツ実習(実技)が中心ではあるが十一年前からは基礎ゼミ・卒論ゼミ、また三年前からは専門科目である二年次の演習科目の一つ「身体とメディア」も担当している。従って以前と比較すると卒業年度の学生との繋がりが出来たのである。卒論を指導した卒業生が研究室に来てくれる事もあり、とても充実感がある。クラブ活動の顧問をしているので、バレーボール部の卒業生との繋がりは昔からあったが、コースの学生基礎ゼミの学生との関係も出来、学生と接する機会もかなり増えたので、とても楽しくやり甲斐を感じている。(坂口)

誤解しないのは、乾パンを購入するのは特殊な状況に限られるから。

次に考えられるのは意味の取り違い。「気が置けない人」を「油断できない嫌な奴」と解釈するような場合。これは意味論的な誤解。本来よい意味の言葉が悪い意味で解釈される。「意味の墮落現象」や「ばい服」はその逆の「意味の向上」の例。

誤解が一番多いのは、相手の真意の読み違い。いつも毒舌をふるっている人が、いきなり優しいほめ言葉を書き添えたら、嫌みだろうと思ってしまう。ところが、実際には本心だったりする。「タクシーは高い」と言う人は、たぶん地下鉄に乗るだろうと思っていて、その人が平気な顔でタクシーを拾って行ってしまったたりする。

聞き手はなぜ誤解するのか。これは言語学の一分野、語用論の研究課題。(中本)

このコラムは、またコースの決まっていない学生、つまり一年生への教師からの連絡のためにあるそうです。私が連絡すべきことはただ一つ、今の一年生が二年生になったとき、私は居ないということだけです。とは言いながら、まだ百日以上の日数があり、セッカ子な私としては、少々まださっさとした感じがします。すでに片付け態勢に入っていますが、御存じのように文芸には個人研究室がありません。その点片付けも楽です。

さて、これから二年生になる方たちに気を付けた方がよいことを申し上げておきます。みなさんの学生生活が経済的に厳しいことは承知しておりますが、アルバイトはなるべく抑えたほうが良いと思います。アルバイト先で評判の良い学生ほど単位を落とすやすいと聞きました。学校の評判とは反比例します。自分の良い所に行きたくなります。するとますます学校に来なくなります。悪循環が起きます。十分に気を付けてください。(内田)

舌をふるっている人が、いきなり優しいほめ言葉を書き添えたら、嫌みだろうと思ってしまう。ところが、実際には本心だったりする。「タクシーは高い」と言う人は、たぶん地下鉄に乗るだろうと思っていて、その人が平気な顔でタクシーを拾って行ってしまったたりする。

聞き手はなぜ誤解するのか。これは言語学の一分野、語用論の研究課題。(中本)

#### 「ひと言ふた言」

##### 悪循環

## 滝沢

### 明子先生

(専任講師)



三歳の時に一年間、一家でフランス・パリに暮らしていました。記憶はあまりないけれど、写真やアルバムを見て自分はフランスにいたという印象・気持ちを持っていたので、フランスに関心を持つたのだと思います。そうご自身のルーツを語ってくれたのは、今年度より文芸学部フランス語/フランス文学研究室に着任された滝沢明子先生。

ご専門はフランスの批評家、ロラン・バルト。もともと読書がお好きだったそうで、東京大学ではフランス文学を専攻。三年生の時に恩師であるフランス人の先生の授業でロラン・バルトの『テクニクの快楽』を読んだのがきっかけとなり研究の道に進

合っている感じがして」と回想していただきました。

学生時代の思い出は、とにかくフランス語の勉強に励んだこと。言語が好きで、英語もイタリヤ語も勉強していた

なことに興味があった。それでロラン・バルトの写真論の『明い部屋』を研究することにした。分析的な理論が面白いと思ったし、自分の文学だけじゃなくて、写真とかにも興味があるところ」にたどり着いた。

現在でも、観劇が趣味とすることで、ライフワークの環境として継続していきたいと思っています。共立の学生は宝塚に詳しい子が多くてびっくりしています！ たのファンじゃない感じが、共立生の宝塚好きに驚きながらも、研究室に訪れる学生と宝塚の話で盛り上がっている様子を見ると先生も相当にお詳しいよう

本学部では、基礎フランス語、文芸ゼミナール、フランス文学各論C、フランス文化演習II、卒業論文ゼミナール、文芸学特講IBを担当

二〇一二年度より運用が開始された司書課程の新しいキュラムへの移行が昨年度で完了しました。課程を履修していくうえで、まずキュラムの基本的構造についてきちんと理解しておいて欲しいと思います。

司書課程のカリキュラムでは、基礎的な知識・技術を学ぶ必修科目群を「基礎科目」、図書館サービスに関する科目、「図書館情報資源に関する科目」に三分けして配置し、加えてより発展的な学びのための選択科目群が設定されています。

今皆さんが履修している科目はカリキュラム全体の流れの中でどのような位置付けになるのでしょうか。それを意識することで各科目の目的や他科目との関連がより明確になり、自分が学んでいることについて理解が深まるはずです。

選択科目の一つ、「図書館実習」は今年度履修者がいまだ少ないです。自分で実習先を探すのも自由です。共立の実習を受け入れても良いという区分図書館もあります。貴重な機会を活用することを考えてみてください。(下村)

「それでいいのだ」

教職課程履修者が全員学校教員志望ではないし、職業として教師を目指すという点では「てきとー」な履修者も多い。よしとしたとしても、文化の伝達を通しての人間形成を教育であると「ゆるーく」考えるならば、それは大学で高等教育を受けた者が担わなければならない当然の責務である。そのため学びを「やみくも」でなく、公教育担当者の資格「教員免許」取得のための「はつきりした」枠組みの中ですることには大いにあってよいし、そのようにして得られた免許を所持する者が学校と教師の強力なサポートになることは間違いない。そもそもは安易な履修を抑制するために設けられた「教育実習資格審査(基準)」によって、教職課程履修者は総じて学習意欲が旺盛で、履修態度も良好との評価がなされているなら結構。ただ、動機はどうあれ、師範学校でない大学の教職課程担当者として、たとえ教員にならなくても、教育が「よく」分かっている卒業生を多く輩出した

#### 「大学院文芸学研科情報」

##### 大学院文芸学研科情報

昨年度、日本文学・英文学・演劇学に加えて開設された文芸学領域に、今年度、二名の入学生を迎えました。いずれも仏文コース出身ですが、研究テーマはフランス文学の枠を超えています。文芸学領域は、歴史、思想、美術、比較文学など、多様な分野での自由な学びが可能ですので、ぜひ挑戦してみてください。(武藤)